

# カナモジ文の書き方

ノハラ ススム

「カナモジダケノブンショウナンテヨミニククテトテモツカエナイ」  
ですね、こんな かきかたでは……。でも つぎの 3つの ポイントを  
おさえれば、よみやすく わかりやすい カナモジ文を かく ことが できます。

## ポイント 1 ワカチガキ（分かち書き）を する。

「スモモモモモモモモモモモモモモモモイロイロアル。」

これでは なんの ことか わかりません。カナモジだけで 文を かくには、  
「スモモ モ モモ、モモ モ モモ、モモ ニ モ イロイロ アル。」のように  
単語と 単語の アイダ または 文節と 文節の アイダに スペースを 入れる  
必要が あります。これを ワカチガキ（分かち書き）と います。英語では  
いうまでも なく ワカチガキを して います。

「Iwillavailmyselfofyourkindoffer.」 の ように スペースを  
いれない ベタガキ（ベタ書き）を しては よみくい ですから。現代の 言語で  
ベタガキを して いるのは、シナ語と 日本語 だけです。日本語でも 点字の  
文は ワカチガキに よって かかれて います。ワカチガキは、カタカナ文 でも  
ひらがな文でも まもらなければ ならない 原則です。

なお、ヨーロッパの 言語も、かつては ベタガキを して いました。  
スペースを 入れて よみやすく する ワカチガキは、必要から うまれた  
進歩した かきかた なのです。

ワカチガキの しかたに ついては、〈ワカチガキのしかた〉（トップページ  
から リンク）を ごらん ください。

## ポイント 2 カナモジ文用の 書体（フォント）を つかう。

カタカナの 文章の よみやすさは、書体（フォント）に よって おおきく  
左右されます。カナモジ文用に デザインされた 「カナモジ書体」を かならず

つかいましょう。この記事のなかのカタカナは、1行目をのぞいてその書体でかいてあります。

くわしくは、〈カナモジ書体とは〉(トップページからリンク)をご覧ください。

この2つのポイントをおさえてかけば、

「カナモジ ダケ ノ ブンショウ ナンテ ヨミニククテ トテモ ツカエナイ」ということはなくなります。

それでもカナモジ文に耐れないひとは違和感を感じるでしょうか。無理もないことです。日本人は、コドモのときから漢字カナまじり文になれたしんできましたから、それとちがった文をみて、シツクリとこないのは自然なことです。漢字カナまじり文もハジメからよみやすかったわけではありません。要は、「なれ」の問題です。カナモジ文もなればラクによめるようになります。

**ポイント 3 いいかえ (コトバえらび/コトバナおし) をする。**

ワカチガキをしてカナモジ文用の書体をつかえば、「よみやすい」文にはなりますが、さらに、「わかりやすい」文にするには、もうひとつ大切なポイントがあります。漢字でかかないと意味がわからなかったり、とりちがえられるオソレのあるコトバをさげ、ミミできてわかるコトバにイイカエ(コトバえらび/コトバナおし)をすることです。

漢語はなるべくつかわないようにしましょう。「センシュ スル」(先取する)ではなく、「サキドリ スル」または「サキ ニ トル」とかきましょう。「バイカ」では「売価」か「買価」かわかりません。「ウリネ」、「カイネ」とかきましょう。「社則」、「校則」、「園則」、「会則」、「党則」など、必要のない区別はやめ、「カイシャ ノ キソク」、「ガッコウ ノ キソク」などのようにするのがよいでしょう。

〈コトバえらび(なおし)のココロミ〉(トップページからリンク)も参考にしてください。

トップページへ

【カオモジカイ キカンシ 「カナヒカリ」 958ゴウ (2014ネン フユ) カラ】  
(イチブ カキアラタメタ。)